

弥陀ヶ原火山ハザードマップ



- 弥陀ヶ原は、過去 1 万年以内に繰り返し水蒸気噴火が発生している活火山です。
- このハザードマップは、過去1万年以内に発生した噴火や他火山での事例を参考に、「小規模噴火 (5万m³) 」と「大規模噴火 (500万m³) 」にわけて噴火による影響範囲を示したものです。
- 噴火によって発生する現象は様々であり、**実際の噴火ではこの図と異なる場合もあるため注意が必要です。**
- [参考：直近の実績]
小規模噴火 約1,500年前 (3.2万m³)
大規模噴火 約2,500年前 (260万m³)

※積雪時の小規模噴火により火口噴出型泥流が発生した場合、融雪型火山泥流が発生し称名川を流れ下りますが、流量が小さいため、道路等への氾濫は生じないと想定されます。

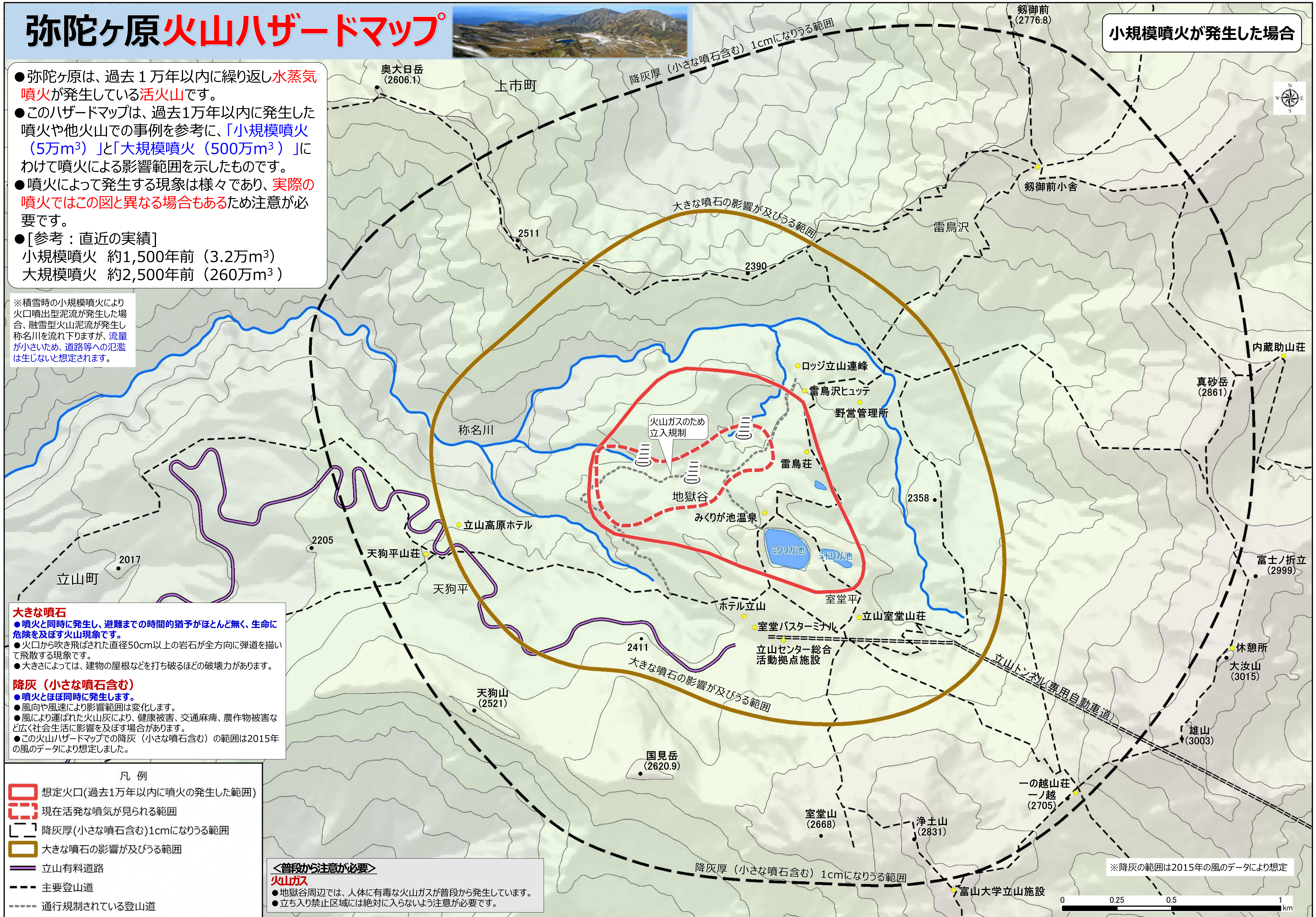
- 大きな噴石**
- 噴火と同時に発生し、避難までの時間的猶予がほとんど無く、生命に危険を及ぼす火山現象です。
 - 火口から吹き飛ばされた直径50cm以上の岩石が全方向に弾道を描いて飛散する現象です。
 - 大きさによっては、建物の屋根などを打ち破るほどの破壊力があります。
- 降灰 (小さな噴石含む)**
- 噴火とほぼ同時に発生します。
 - 風向や風速により影響範囲は変化します。
 - 風により運ばれた火山灰により、健康被害、交通麻痺、農作物被害など広く社会生活に影響を及ぼす場合があります。
 - この火山ハザードマップでの降灰 (小さな噴石含む) の範囲は2015年の風のデータにより想定しました。

- 凡例
- 想定火口(過去1万年以内に噴火の発生した範囲)
 - 現在活発な噴気が見られる範囲
 - 降灰厚(小さな噴石含む)1cmになりうる範囲
 - 大きな噴石の影響が及びうる範囲
 - 立山有料道路
 - 主要登山道
 - 通行規制されている登山道

<普段から注意が必要>
火山ガス

- 地獄谷周辺では、人体に有毒な火山ガスが普段から発生しています。
- 立ち入り禁止区域には絶対に入らないよう注意が必要です。

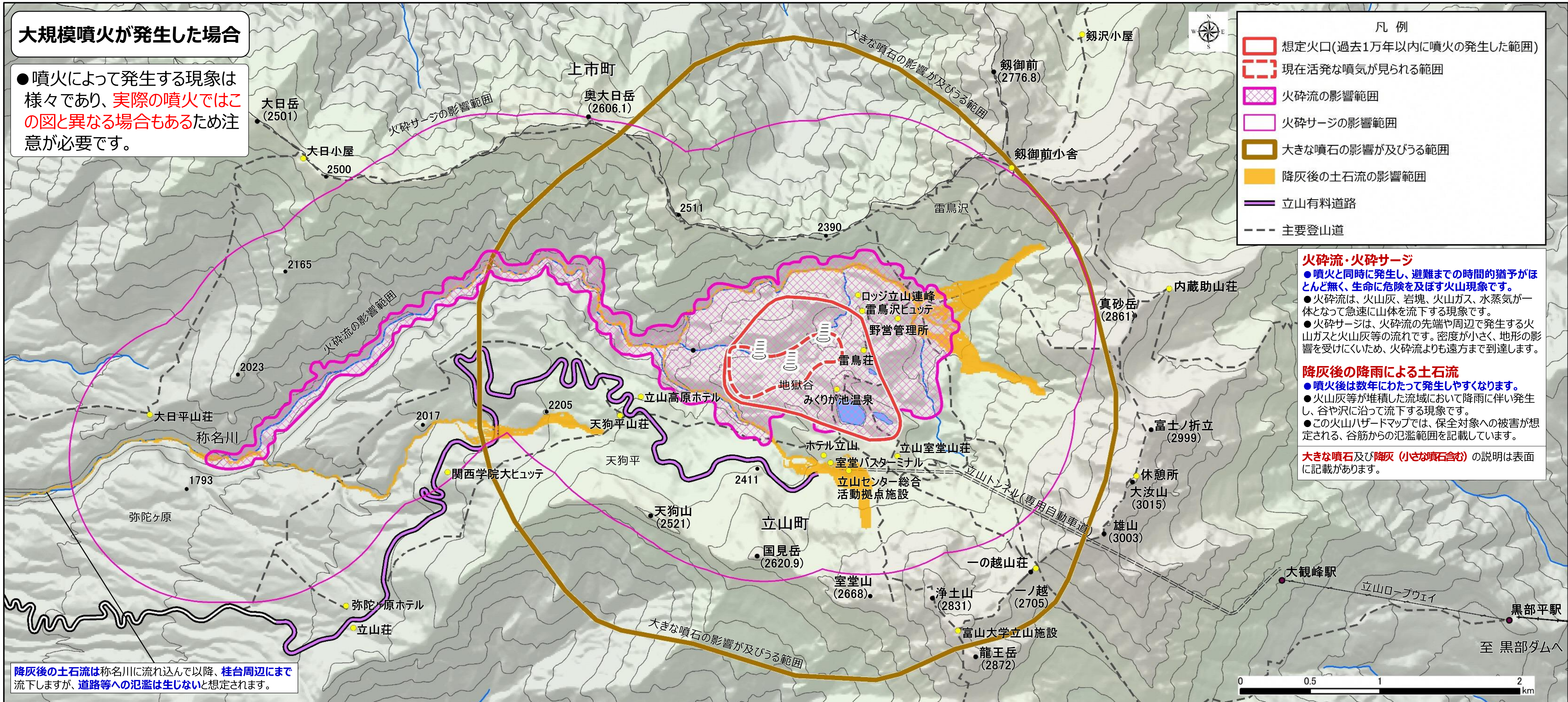
小規模噴火が発生した場合



大規模噴火は裏面へ

大規模噴火が発生した場合

●噴火によって発生する現象は様々であり、**実際の噴火ではこの図と異なる場合もあるため注意が必要です。**



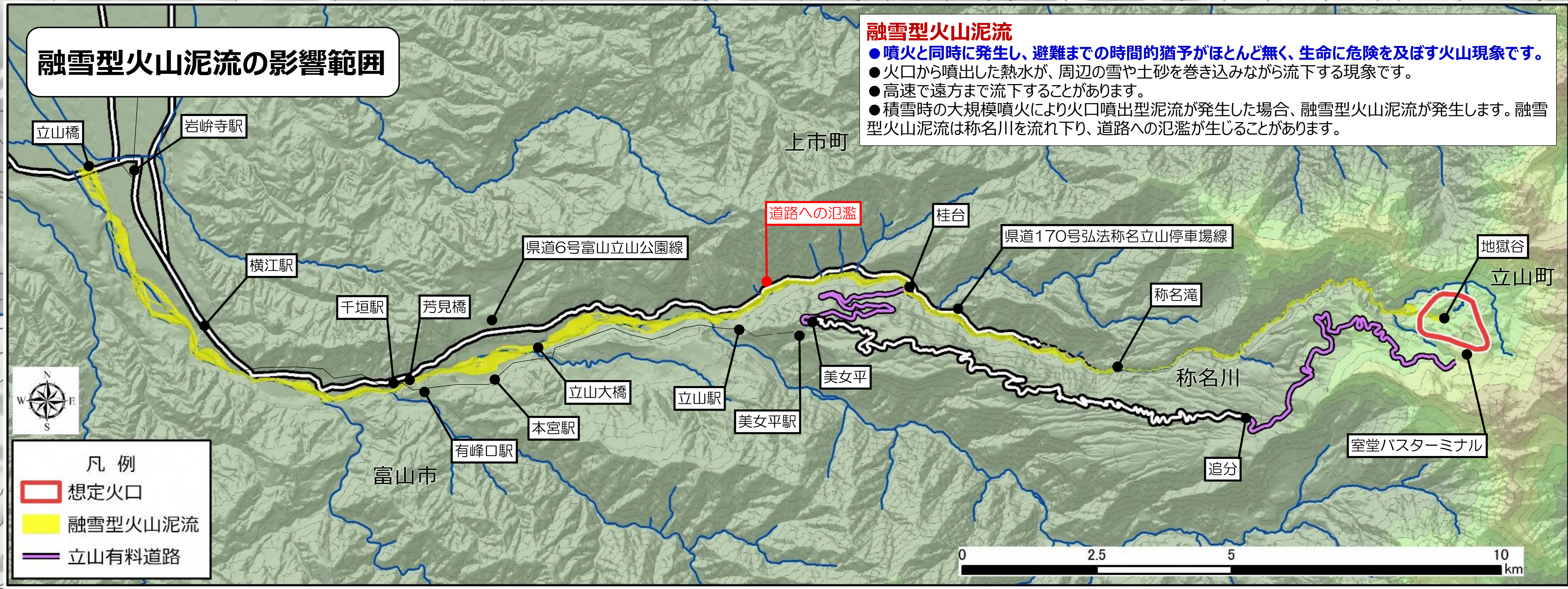
火砕流・火砕サージ
 ●噴火と同時に発生し、避難までの時間的猶予がほとんど無く、生命に危険を及ぼす火山現象です。
 ●火砕流は、火山灰、岩塊、火山ガス、水蒸気为一体となって急速に山体を流下する現象です。
 ●火砕サージは、火砕流の先端や周辺で発生する火山ガスと火山灰等の流れです。密度が小さく、地形の影響を受けにくいので、火砕流よりも遠方まで到達します。

降灰後の降雨による土石流
 ●噴火後は数年にわたって発生しやすくなります。
 ●火山灰等が堆積した流域において降雨に伴い発生し、谷や沢に沿って流下する現象です。
 ●この火山ハザードマップでは、保全対象への被害が想定される、谷筋からの氾濫範囲を記載しています。

大きな噴石及び降灰(小さな噴石含む)の説明は表面に記載があります。

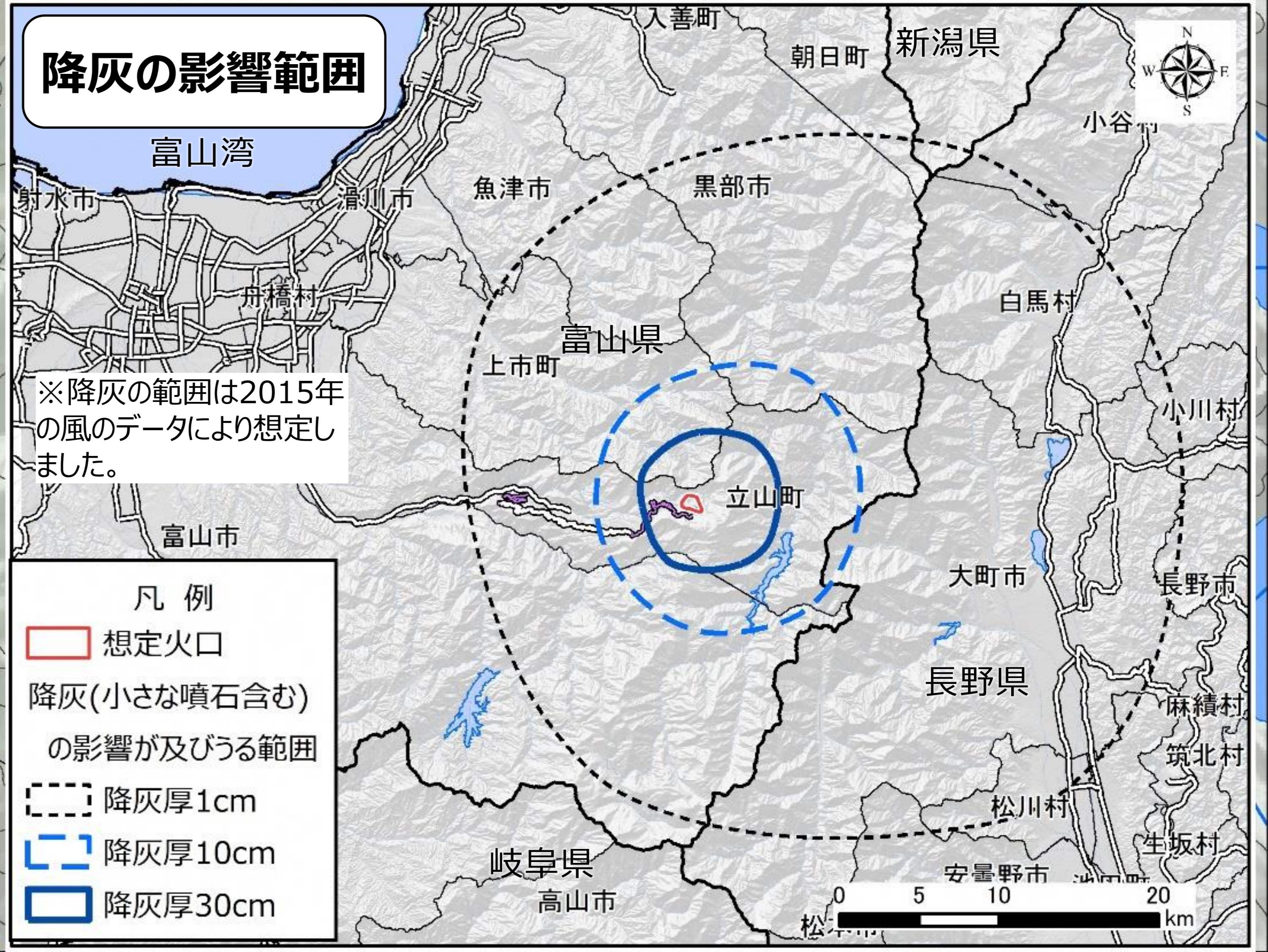
降灰後の土石流は称名川に流れ込んで以降、桂台周辺にまで流下しますが、**道路等への氾濫は生じないと想定されます。**

融雪型火山泥流の影響範囲



融雪型火山泥流
 ●噴火と同時に発生し、避難までの時間的猶予がほとんど無く、生命に危険を及ぼす火山現象です。
 ●火口から噴出した熱水が、周辺の雪や土砂を巻き込みながら流下する現象です。
 ●高速で遠方まで流下することがあります。
 ●積雪時の大規模噴火により火口噴出型泥流が発生した場合、融雪型火山泥流が発生します。融雪型火山泥流は称名川を流れ下り、道路への氾濫が生じることがあります。

降灰の影響範囲



※降灰の範囲は2015年の風のデータにより想定しました。

この弥陀ヶ原火山ハザードマップの作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製した。(承認番号平29北複、第31号) ※第三者がさらに複製する場合は、国土地理院の長の承認を得なければなりません。
 ・作成：弥陀ヶ原火山防災協議会 発行年月日：平成30年8月 連絡窓口：富山県防災・危機管理課 (076-444-9671)